

■巻頭言 「JICA 委託事業をめぐって考えること」

筑波大学特別支援教育研究センター 左藤 敦子

夕刻の風の涼やかさに秋の訪れを感じながら、11月下旬から受け入れ予定の研修員8カ国11名に向けての研修プログラムの準備を、まさに今、進めているところです。このプログラムの大きな目玉は、附属特別支援学校5校の協力のもと、筑波大学ならではの「教育実践型研修」が実現できる点にあります。今回の研修プログラムでは、今春から公開されている「教材・指導法データベース」を活用したワークショップの実施を計画しており、英語版データベースの構築も急ピッチで進めているところです。日本語版のバージョンアップと同時作業となり、現在格闘中ですが、できあがりしましたら、一度、目を通していただければと思っております。



さて、その英語版のデータベースです。「教材・指導法データベース」がすでに公開されていることもあり、その内容を英語化すれば「英語版データベースは完成！」とシンプルに考えていましたが、実は、それほど簡単なことでないのでは…と考えを改めたところです。たとえば、日本語版に掲載されている検索キーワードボタンをどのような英語表記にするか等です。「自立活動」「遊びの指導」「生活単元学習」等々、日本語の字面通りに辞書的な英訳をつけても、日本の特別支援教育の枠組みを知らない人には意味内容が伝わりにくく、検索キーワードとしてうまく機能しないことも考えられます。日本の特別支援教育の制度や理念、教育課程についての知識のない海外の人々にとって理解しやすい英語表記がどのようなものか、なかなかの難問です。

しかし、この難問は単純に英訳が難しいということだけの問題ではないのではないかと感じています。日本の特別支援教育の現状を理解してもらうことはもちろんですが、日本の文化とは違う習慣や宗教、文化、教育観、社会の中での障害者の位置づけや障害観を背景とする国々に向けて、日本で蓄積されてきた財産の本質がどこにあるのかを丁寧に伝えることが、とても重要ではないかと思っています。そして、それは、異文化の視点で日本の「優れた実践」を改めて評価する機会にも発展していくのではないかと感じています。

頭の中で、このようなこともグルグルと考えながら、日々、準備を進めております。これから、研修プログラムの実施にあたって、附属特別支援学校の先生方にはお世話になりますが、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

※ 以下のURL、QRコードからご覧いただけます。是非、目を通してみてください！ ※

特別支援教育研究センターと附属特別支援学校5校の協働による
筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース



<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/kdb/>



■平成28年度筑波大学免許法認定公開講座 報告

平成28年7月25日（月）から8月5日（金）の12日間にわたって、平成28年度筑波大学免許法認定公開講座が筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催されました。この公開講座は、特別支援学校教諭免許状の取得を目指す教員を対象に行われる講座であり、延べ491名の現職の先生方が全国から受講されました。



講座には、大学や附属特別支援学校の先生方を講師にお迎えし、特別支援教育の理論と実践に基づく内容を講義していただきました。暑い中ではありましたが、担当して下さった先生方には熱心に講義をしていただきましたし、講義においていろいろな工夫や配慮をしていただきました。

受講生の受講の様子や講師の先生に質問している姿からは、受講者の免許状取得の意気込みや専門的な知識獲得の熱意が伝わってきました。講義内容に対しては、専門的な内容、実践的な内容に基づく講義で大変わかりやすく、現場に戻り実践してみたい、今後活かしていきたいという意見が、受講者から多く聞かれました。

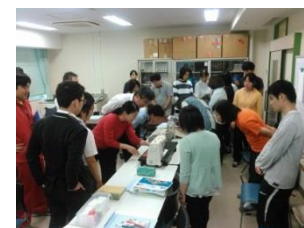
また、各附属特別支援学校からは、この講座を運営するために補助員のご協力をいただきました。12名の補助員の先生方のおかげで受講者への対応などスムーズな講座運営ができました。



*実際に教材を扱って *図や模型を参考に *様々な教材の紹介 *動画による解説 *要約筆記の実施

■5 附属連絡会議，教材・指導法学習会

今年度は、教材・指導法データベースで公開された教材などを中心に実践の交流を意図し、各附属を会場に5附属会議を実施しています。初回を視覚、その後、桐が丘、大塚を会場校として会議を行いました。教材指導法の学習会として、会場となった学校から、実際の教材や授業場面のVTRなど、具体的にご紹介していただいたりしています。また学習会には5附属構成員以外にも多くの先生のご参加もいただき、各校の実践や教材を間近に見たり、情報交換をしたりすることで、大変充実した時間となっています。各校の先生方、ご協力ありがとうございます。今後も、聴覚特別支援学校（12月8日）、久里浜特別支援学校（10月20日）を会場に教材指導法学習会を行います。どうぞよろしくお願ひします。これを機会により多くの先生方に教材・指導法データベースをご覧いただき、センターへコメントなどお寄せください。



<教材・指導法学習会より>

* 5月19日：視覚特別支援学校 「手触りと音の本」小西先生，「立体複合図形凹型」中村先生，「ミシンのガイド」小美野先生



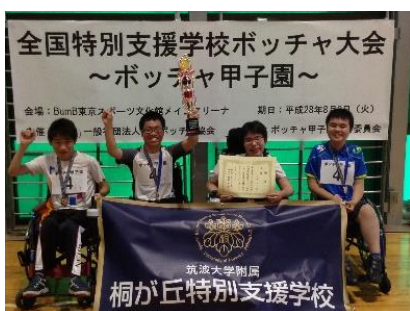
* 6月3日：桐が丘特別支援学校 「頭文字穴埋めプリント」清野先生，「クレーンアドベンチャー（大塚のびよんキャッチゲームを桐が丘の小学部で実践した例）」鹿田先生，「風船打ち練習機」池田先生



* 9月8日：大塚特別支援学校 大塚の先生方と一緒に教材作りを体験しました。各校の子どもたちの姿を思いながら、どんな場面で、どんな風に使おうか、など和気あいあいと話し合いながら作成していました。校内でご活用下さい。

今後、教材動画も増やしてデータベースの充実を図りたいと思います。ご協力よろしくお願ひします。

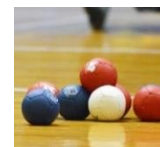
■附属ニュース（附属桐が丘特別支援学校）



8月の夏休み期間中にも、たくさんの生徒たちの活躍の報告がありました。その中の1つ、全国特別支援学校ボッチャ大会「ボッチャ甲子園」（8月2日）では高等部の生徒が出場し、見事金メダルに輝きました。

ボッチャは、赤対青2チーム対抗で戦います。ジャックボールと呼ばれる白いボールが的となります。1チーム6個ずつのボールを投げたり、転がしたり（必要な時には、ランプと呼ばれる桶のようなレールを使用）して、ジャックボールに、より近

づけた方が勝つという競技です。個々の状態に応じていろいろな参加の仕方ができ、レクリエーションとしても活用されていますが、公式試合では、各自の特性を生かした作戦を駆使して、熱く試合が行われます。パラリンピック公式種目でもあり、体育の授業でもおなじみの種目です。めざせ東京パラリンピック！



■附属ニュース（附属久里浜特別支援学校）

今年度、学校にプールが新設されました。7月6日、テープカットとお手製のくす玉割りをして、“プール開き”と“初泳ぎ”を行いました。

本校の子どもたちはプールが大好きです。「プールが広い！」「楽しい！」と歓声を上げる子、深さを確かめながら少しずつプールに入る子、ビート板につかまって泳ぐ子、浮き輪に乗って浮かぶ子、水面を叩いて水しぶきや波



を楽しむ子…。感想も楽しみ方もそれぞれですが、どの子も自分で楽しみ方を見つけて選びながら、プールでの活動を満喫しています。夏休みには親子プール開放を行いました。お母さんやお父さんと一緒にプールに入ってもらい、親子で楽しみながら、子ども達のいきいきとした姿を見てもらう機会を持ちました。

子どもたちからは、「来年はもっとたくさんプールに入りたい！」「泳げるようになりたい！」、そんな声が聞かれています。

■研修生日記

研修が始まって半年が経過しました。附属特別支援学校での参観や演習、指導教員からの研究指導を受けながら研修を進めています。9月15日には研修成果中間報告会を行いました。

センター研修生としてお世話になり、半年が過ぎました。毎日が充実し、あっという間の半年でした。

研修では、文献に学ぶだけでなく、附属5校での演習の機会があります。幅広い知見に触れることができ、新しい発見があります。また、研究もすすめています。岡崎慎治先生にご指導いただきながら、研究のおもしろさを感じ始めています。貴重な経験をさせていただいて



ることに感謝しながら、残りの期間も研修に励みたいと思っています。
*宮嶋 友香理（長野県 稲荷山養護学校）

現職教員研修生としてお世話になり始めてから半年が過ぎようとしています。

センターの講義・演習を通して、最新の知見を幅広く学ぶ機会をいただいています。また、指導教員の柘植雅義先生からは、研究の基礎から丁寧に御指導をいただいています。

これまでの研修で根拠に基づいた実践を展開すること、広い視野や先見性をもつことの重要性を学びました。残りの半年間、学校現場に



より多くのことを還元できるように研鑽に努めたいと思います。
*米沢谷 将（さいたま市 立さくら草特別支援学校）

■附属行事予定（9月～12月）



9月24日（土）	聴覚・体育祭
10月1日（土）	桐が丘・運動会
10月8日（土）	視覚・幼小運動会
10月13日（土）～14日（日）	聴覚・全日聾研
10月22日（土）	久里浜・運動会
10月29日（土）～30日（日）	視覚・文化祭
11月2日（水）～3日（木）	聴覚・文化祭
11月5日（土）～6日（日）	桐が丘・桐が丘祭
11月19日（土）	大塚・大塚祭
12月9日（金）	久里浜・実践研究協議会

■12月セミナーのご案内

センターセミナーを開催します。

今回は，“教材” “データベース” “国際” をキーワードに，アフリカ大洋州地域からの JICA 研修員との意見交換や情報交換を行い，本センターで構築したデータベースの活用の可能性や今後の展開について考えます。是非，ご参加ください。

- 日時 12月3日（土） 13:00～16:30
- 場所 筑波大学東京キャンパス文京校舎 337講義室
- テーマ シリーズ：特別支援教育の進展（5）
－教材・指導法データベース 国際貢献の可能性－
- 内容 第1部：海外の教材の紹介
第2部：日本の教材の紹介
第3部：総合ディスカッション（新興国での教育活動経験者を招いて，データベースや教材・指導法や授業づくりについての意見交換を行います。）
- 参加 事前にお申し込みをお願いします。
E-mail：snerc@human.tokusba.ac.jp 電話：03-3942-6923（担当：小曾根）

■書籍紹介 『講座 特別支援教育 [第2版] -全3巻-』

特別支援教育の基礎理論，障害の理解，指導法について解説しています。特別支援教育に携わる教員や，特別支援教育を志す学生必携のシリーズです。

今回，「インクルーシブ教育システム」「合理的配慮」など最新の動向や，研究・実践の進展，法改正，制度の変更等も踏まえ，初版の内容から大幅に改定しました。

*教育出版，各2,400円

*筑波大学特別支援教育研究センター／斎藤佐和／前川久男／安藤隆男・四日市 章 編

